

2023年11月30日(木)

老球の細道763号

11月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

体が自由になる喜びを感じると孫達との遊びも積極的になった。孫たちが学校から帰って来ると、天気の良い日はあいづ体育館運動公園にバスケットボールを携えて出かける。リニューアルされた外のバスケットコートでシュート遊びをして楽しむ。残念なのはゴールが2つしかないことである。多くの若者たちがプレイしていると孫たちのプレイする場所がない。大谷選手は3個グラブを寄付したが、八村、渡辺選手には3つのバスケットゴールを寄付してもらいたい。一つの学校の校庭に3つのゴールがあれば多くの子どもが遊べる。

1・テレビから

◆「来た時よりもより良いチームにして去る」〈エディー・ジョーンズ：NHK ニュース「監督の資質を問われて」〉：指導者の真骨頂は、弱いチームを強くする。弱い選手を強い選手に育てる。強くしたらさらば。決して「シェーン！」と呼ばれてカムバックしてはいけない。

◆「完璧（パーフェクト）でなくて、素晴らしい（エクセレント）ことを目指す」〈フィギュアスケート鍵山選手の新コーチの言葉：NHK ニュース〉：イタリアから迎えた新コーチからのアドバイスで、表現力に一層の磨きがかかっているという。新コーチは表現力を究めるために音楽、演劇などスケート以外のジャンルも学ぶという。演技の美学は際限なし。

2・読書から

◆「どんな場合にも愚痴を言うべきものではない・・・それが上に立つ者の第一の心得なのだ」〈『徳川家康 15』山岡荘八著：講談社〉：昔から戒めていたことはグッチのバッグは持ってもいいがグチを言っておしまいだ。グッチャー（愚痴ばかり言う人）の下で仕える日々生き甲斐はない。指導者の愚痴に学ぶものなし。他人のふり見て我が身を正せ。

◆「一度でも壁を乗り越えた快感を味わった人間は、『不可能はない。自分の気持ちしだいだ』と思えるようになる」〈『指導者のためのスポーツジャーナル』：平尾誠二〉：勝つことを目標にしないスポーツはない。ただし、それがすべてではない。勝つために、どこを見たか、何をしたか、どのくらい努力をしたかが他の領域にも活きる。スポーツの価値である。

3・新聞等から

◆「最も困難なのは善か悪かの選択ではなく、悪かそれ以上の悪かの選択である」〈朝日：天声人語：マイケル・イグナティエフ〉：ハマスに襲撃されたイスラエルの過剰な暴力が未だに止まることがない。お互いの歴史を学んでもどちらに正義があるのか不明である。ただ両方の民衆側に立てば一日も早く停戦すべきである。

◆「来年は絶対に勝とう！勝つ、勝つ、勝つ！」〈朝日：長嶋茂雄〉：巨人のファン感謝イベントに、サプライズで“ミスター”が登場し、自身がかつて巨人を優勝に導いた時の言葉を発した。結果より過程が重んじられる昨今。勝利に向かって努力するからこそ「過程」が活きる。勝利への執着や「結果」をないがしろにして得られる「過程」は意味が薄い。